

令和 8 年度

シラバス

2年生（理系）



国 語
地歴公民
数 学
理 科
保健体育
英 語
情 報
教育課程表

岐阜県立斐太高等学校

科目	論理国語	単位数	2単位	学年・コース・組	2年 文理共通
使用教科書	探求 論理国語 (桐原書店)				
副教材等	大学入試に出た 核心漢字 2500+語彙 1000 (尚文出版編集部 編)				

1. 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
実社会に必要な国語の知識や技術を身に付けている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

3. 学習の計画

月	指導の領域 指導時間		単元名	指導項目 (単元目標)	主な言語活動	評価の場面 ・方法	評価の観点			教材名
	書く	読む					a	b	c	
4		4	<知>の コミュニ ティへ	内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが ら要旨を正確に把握する。	論理的な文章を読み、「多様性を認めるこ と」について、自身の 意見をまとめ、グルー プで討論する。	行動観察 課題・レポ ート ワークシー ト 振り返りシ ート	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	気持ちよさ という罪
5		4	評論 I	評論という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが ら要旨を正確に把握す る。	「いのち」は自分のも のだと考える一般論と は異なる論点をもつ複 数の文章を読み、批評 する。	行動観察 課題・レポ ート ワークシー ト 振り返りシ ート	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	いのちは誰 のものか?
		2	2	<知>の 深化	2つの文章の共通点を理解し、 まとめつつ自分の主張について 根拠をもって表現する。	「いのちは誰のもの か」について多様な資 料を集め、調べたこと を整理し、様々な観点 からまとめ、意見交流 をする。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	晴れた空の 下で
		1	中間考査				○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	
6		6	評論解析 A	話題、論旨の展開を把握し、筆 者の主要な見解を把握する。 指示表現が指す内容を明らかに することで、本文内容を的確に 捉える。	複数の短文について、 様々な観点から要約を した後に、意見交流を 行い、文の表現や構造 を吟味し、自分の文章 が的確に伝わる文章に なるように工夫する。	行動観察 ワークシー ト 振り返りシ ート	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	科学と市民 集落の創造 「もどかし さ」の融合 「可能性」 としての貨 幣
7		4	評論 II	言語の働きについて、文章の 内容や解釈を多様な論点や異なる 価値観と結び付けて、新たな観 点から自分の考えを深め再構成 する。	評論コラム1の短い論 文を読み、本文との関 連を考察しながら自分 の考えを論述し、クラ ス発表をする。	行動観察 課題・レポ ート ワークシー ト 振り返りシ	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	動物の信号 と人間の言 語

						振り返りシート				
2 3	5		実社会	伝えたいことが的確に伝わるように、文章の構成や展開、表現の仕方などを吟味し、文章全体を整え、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直し、自分の表現を工夫する。	「通信文」や「観光地紹介」を、的確にまとめたり、調べたことを整理したりしてまとめる。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○	○	○	通信文を書く 観光地紹介を書く
		1	学年末考査				○	○		
時 数	書									
	読									
	30 40									
	70									

・毎週1度、授業時に前期は漢字書きとり小テスト、後期は語彙の小テストを行います。

4 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。	
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技術を身に付けている。
思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・年4回の定期考査（前期中間・前期末・後期中間・学年末）
※各考査の出題範囲は各考査直前までの学習内容を基本とします。
- ・長期休暇明けの課題考査3回（夏・冬）および課題への取り組み状況
- ・学習への参加状況（ノートづくり、話し合いへの取り組み状況・授業中の発言など）
- ・週一回の漢字・語彙テスト

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5 特に強調しておきたい点（留意すべき点・担当者からのメッセージを含む。）

<p>1年次で学習した現代の国語に引き続き更に読解力、想像力が必要となる論理的な文章、実用的な文章を読み進めていきます。学習活動は1年次のものから劇的に変化することはありませんが、継続して以下の点に注意して日々の学習を進めてください。</p> <p>①日々の授業を大切にすること。 （1年次に学んだことを振り返り、積極的に授業に参加してください。）</p> <p>②課題を欠かさず行うこと。 （授業では課題が課されることがあります。限られた授業時間を有意義なものにするために積極的に取り組んでください。）</p> <p>③長期休暇課題を丁寧に解くこと。 （授業で扱う文章は限られたものです。多くの文章に触れて読む訓練をしてください。また、模範解答にもしっかりと目を通し、問題を解くポイントを学んでください。）</p> <p>④毎回の漢字・語彙小テストにきちんと取り組むこと。 （試験において漢字は必ず出題されます。漢字は短期間で習得するのは困難なため、日々の漢字演習をここで行ってください。また、語彙の辞書的な意味を知っておくことは、文章読解の要です。おろそかにしないようにしましょう。）</p>
--

科目	古典探究		学年・年次	2年	指導クラス	E～G組	指導者名		
単位数	2	使用教科書	高等学校 古典探究 (数研出版)			副教材・問題集等	体系古典文法（数研出版） 新明説漢文（尚文出版） 核心古文単語351（尚文出版）		

1. 科目の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めようとしている。	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典を通して先人のものの見方、感じ方、考え方と関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

3. 指導及び評価計画

月	指導の領域 指導時間	単元名	指導項目 (単元目標)	主な言語活動	評価の 場面・方法	評価の観点			教材名
						a	b	c	
4	3	説話 ・敬語について理解する。 ・和歌に対する情熱について理解する。 ・歌合について理解する。	『沙石集』の編者が、忠見のあり方をどのように評価しているか説明する。 ・忠見のあり方をどのように評価するかを話し合う。	登場人物の生き方について評価し、話し合う。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	兼盛と忠見 (沙石集)
	2	故事 ・反語の句法を理解する。 ・華歎と王朗の人物像を的確に捉えどちらが優れているかを理解する。	・世間の人が華歎・王朗のことをどのように評価したかを説明する。	華歎と王朗のどちらが優れているのかを考えて発表する。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	華歎・王朗 (世説新語)
	4	歌物語 ・和歌の修辞を正確に解釈する。 ・「春日野の…」歌と「みちのくの…」歌の類似点を指摘し、相違点とその意味や効果について理解する。	・それぞれの歌について修辞法を確認する。 ・「男」が着ていた「狩衣の裾」を切り取って歌を書いたのはなぜか考える。 ・「春日野の…」の歌と「みちのくの…」の歌の類似点・相違点を考える。	『伊勢物語』を例に、歌物語の特徴をまとめ、理解する。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	初冠 (伊勢物語)
5	3	歌物語 ・敬語について理解する。 ・和歌の修辞を正確に解釈する。 ・貴族の褒美の授受について理解する。	・「あさみどり……」の歌について現代語訳し、この歌が「鳥飼」という題の歌であると言えるのはどうしてか、説明する。 ・「二間ばかり積みてぞおきたりける」とは、何がどのような様子であるというのか、説明する。	本文の内容について整理し、説明する。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	鳥飼の院 (大和物語)
	3	故事 ・使役の句法を理解する。 ・故事成語について関心を深める。	・張僧繇がどのような画家として描かれているか説明する。 ・「画竜点睛」という故事成語の辞書に載っている意味と用例を比較する。	自分の知っている故事成語について、その元となった話や逸話がどのようなものであったかを調べ紹介し合う。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	画竜点睛 (歴代名画記)
6	1	前期中間考査				○	○		
	5	随筆(一) ・古典常識について、幅広く理解する。 ・本文で「すさまじ」と評される事物の特徴を理解しつつ、「すさまじ」の意味変遷の歴史について理解を深める。	・第二段落では、何が「すさまじきもの」とされているかをまとめる。 ・「ゆるぎありきたるも、いとをかし。すさまじげなり」とはどういうことかを説明する。 ・現代語「すさまじい」の意味を調べ、古語「すさまじ」からの意味変遷の歴史をまとめる。	語句の意味変遷の歴史をまとめる。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	すさまじきもの (枕草子)

	2	漢詩 ・漢詩のきまりや特色を理解する。 ・漢詩を読み味わう。	・漢詩に描かれている情景や心情を読み取り、優れた表現に親しむ。	印象に残った詩を挙げ、どこが印象的であるかを話し合う。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○	○	○	【絶句】 勸酒 (唐詩選) 山中对酌 (古文真宝)
7	5	漢詩 ・漢詩のきまりや特色を理解する。 ・漢詩を読み味わう。	・漢詩に描かれている情景や心情を読み取り、優れた表現に親しむ。	印象に残った詩を挙げ、どこが印象的であるかを話し合う。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○	○	○	磧中作 (唐詩選) 澄邁 駅通潮閣 (東坡後集) 【律詩】 旅夜書懷 (唐詩選) 黃鶴樓 (唐詩選) 寄李儋・元錫 (唐詩三百首)
9	4	日記文学(一) ・日記や日記文学について理解する。 ・物語のありようや源氏物語について理解や関心を深める。 ・作者の心情を理解する。	・物語を読みたいと思う気持ちが表れている表現を順に抜き出す。 ・「人知れずうち泣かれぬ」という作者の気持ちを説明する。	「日記文学」は現代の「日記」とどのように異なるのか確認し、当時の女性たちが日記文学を著した理由について考える。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○	○	○	東路の道の果て (更級日記)
	1	前期期末考査				○	○		
10	4	物語 ・敬語について理解する。 ・後宮について理解し、登場人物の心情を整理する。	・帝が「桐壺の更衣」を寵愛することに對し、まわりの人々はどう思ったかを説明する。 ・「一の皇子」と「玉の男皇子」とに對する帝の接し方の違いを説明する。 ・帝・桐壺の更衣・弘徽殿の女御の人物像について考える。	『源氏物語』理解を深め、「光源氏誕生」についていくつかの現代語訳を読み比べ、それぞれの訳の特徴についてまとめる。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○	○	○	光源氏誕生 (源氏物語)
	4	物語 ・敬語について理解する。 ・和歌の修辞を正確に解釈し、尼君と女房の歌の比喻を理解する。 ・垣間見を解する。	・「生ひ立たむ…」と「初草の…」の歌について、「若草」「露」「初草」が何をたとえているか、それぞれの歌は何を訴えているかを説明する。 ・光源氏は「女子」のどこに魅力を感じたのかを理解する。	『源氏物語』の各国語訳やメディア化について調べる。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○	○	○	小柴垣のもと (源氏物語)
11	3	随筆(二) ・「無常」に対する作者の考えを理解する。	・「世の中にある人と栖と、またかくのごとし」について「人と栖」が何とどのように同じなのかを説明する。 ・「無常」に対する作者の考えについて説明する。	『方丈記』で描かれる「無常観」についてまとめる。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○	○	○	ゆく河の流れ (方丈記)
	3	随筆(二) ・「無常」に対する作者の考えを理解する。	・「長くとも、四十に足らぬほどにて死なんこそ、めやすかるべけれ」と作者が言う根拠について、整理する。 ・命が永遠ならば「いかにものあはれもなからん」という作者の考え方に賛成の意見・反対の意見を出し合い、話し合う。	作者の考え方に賛否の意見を出し、話し合う。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○	○	○	あだし野の露 (徒然草)
	1	後期中間考査				○	○		
12	3	歴史物語 ・敬語について理解する。 ・出家について理解する。 ・花山天皇と道兼の人物像を理解する。	・「さり」と「さりとて」「さりとて」「さりとて」が指す内容を説明する。 ・花山天皇の出家はどのように行われたのか、道兼の行動に注意しながらまとめる。 ・花山天皇と道兼の人物像をまとめる。	登場人物の行動と人物像について考察する。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○	○	○	花山天皇の出家 (大鏡)
	5	史伝 ・人物像を的確に捉え、劉邦が鴻門から脱出することができた理由を理解する。	・「鴻門の会」の読解を踏まえて、劉邦が鴻門から脱出することができた理由を考えて話し合う。	劉邦が鴻門から脱出することができた理由を考えて話し合う。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○	○	○	鴻門の会 ・劍舞 ・頭髮上指す ・豎子、与に謀るに足らず (史記)
1	4	思想 ・性善説と性悪説の比較を通して、中国思想についての理解を深める。	・孟子が「性善説」を唱え、荀子が「性悪説」を唱えるそれぞれの根拠を確認する。 ・古代中国のさまざまな思想を比較し、人間のあり方について考えを深める。	「人間の本性」と「人間の本性が善か、悪か」について、それぞれ自分の考えをまとめ、発表する。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○	○	○	性善 (孟子) 性悪 (荀子)
	3	思想 ・「未来に備える遺伝子」を読んで作者の考えが道家の思想に通じることを理解する。	・「未来に備える遺伝子」を読んで、単元内で学習した諸子百家の文章に見える考え方の共通点を考える。 ・諸子百家の文章から現代に通じる考え方を探し、文章としてまとめる。	諸子百家の文章に見える考え方から、現代社会に通用する部分を考察する。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○	○	○	無為之知 (老子) 無用之用 (老子)

これだけのことをやって授業を受けるのと、全く何もやらずに授業を受けるのでは大きな差が出ます。本文の全てを完璧に訳してくる必要はありません。分からないところは授業で聞いて分かるようにすればいいのです。予習は分からないところを見つけてくる作業を中心にしてください。

科目	地理総合		年次・コース	2年
単位数	2	使用教科書 「地理総合 改訂版 世界に学び地域へつなぐ」(山川出版社) 「新詳高等地図」(帝国書院)	副教材・問題集等 「新編地理資料2026」(とうほう) 「地理総合 改訂版 ワークブック」(山川出版社)	

1. 科目の目標

- 1 地図や地理情報システム (GIS) などを活用して、地理的な見方・考え方を働かせて地理に関する情報を適切に調べとめる力を身に付けます。
- 2 グローバルな視点から国際理解や生活文化の多様性を理解するとともに、諸課題について多面的・多角的に考察する力を培います。
- 3 地域的な視点から防災などの諸課題に対して意欲的に探究して持続可能な社会づくりを構想し、それをもとに議論する力を養います。
- 4 1~3の学習を通じて国際社会に生きる日本人としての自覚、国土に対する愛情、世界の多様な生活文化することの大切さについての自覚・資質を深めます。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
地理に関わる世界の生活文化の多様性や、防災・地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察したことを効果的に説明し、それをもとに議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現に向けて主体的に課題を解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察を通じて涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。

3. 学習の計画

月	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動(指導内容)と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4 5	第1章 地図とGISの活用	1 球面上の世界	14	緯度・経度の基本的なしくみを理解し、時差計算の技術を身に付ける。	行動観察 ワークシート 課題確認 振り返りシート	○	○	○
		2 世界からみた日本の位置と領域		グローバルな立場から国境や国家の領域の世界的な基準を捉え、日本が抱える周辺諸国間との領有権の問題や海洋資源の利用について考察する。				
		3 国内や国家間の結びつき		統計地図やグラフのつくり方・読み取り方を身に付け、資料を根拠とした多面的・多角的な課題解決策を考察する。				
		4 暮らしのなかの地図とGIS		地図情報の有用性と紙地図・電子地図としてのGISがあることを理解し、GISの利用方法を身につける。				
6 7 9	第2章 地理的環境の特色	1 地形	12	世界の大地形の広がりや外的営力による地形の形成を理解し、それらの影響による人々の生活環境の変化について資料から考察する。	行動観察 ワークシート 課題確認 定期考査 振り返りシート	○	○	○
		2 気候		大気や海流が循環するしくみを捉え、熱帯・乾燥帯・温帯・亜寒帯・寒帯の各気候が人々の生活文化に多様な影響を与えていることを理解する。				
		3 産業		第1次・第2次・第3次産業の地域的な特徴を主題図などの資料を通じて理解する。				
		4 宗教・言語		世界でみられる生活文化の多様性について資料を通じて理解するとともに、マイノリティをふまえた多様な人々に配慮した自他の文化を尊重する社会の実現を考察する。				
9 10 11	第3章 世界各地の生活文化	1 東アジア	16	社会経済システムの変化に着目して、東アジアの中国と韓国を例に両国の特徴を主題図やグラフなどの資料を通じて考察する。	行動観察 ワークシート 課題確認 定期考査 振り返りシート	○	○	○
		2 ASEAN諸国		多民族社会と地域統合に着目し、東南アジア諸国の人々の生活文化にはどのような特色がみられるのか、主題図や写真などの資料をもとに理解する。				
		3 南アジア		水資源に着目し、自然環境を捉えながら宗教・農業・文化・産業の成立の関わりを主題図やグラフなどの資料を通じて理解する。				
		4 イスラーム圏		イスラームに着目し、気候条件・宗派・資源・少数民族の問題など、社会問題を例に主題図や写真などの資料を用いて理解する。				
		5 アフリカ		自然環境と生活文化の多様性に着目し、資源開発などを背景とした近年の経済成長について主題図や写真などの資料を通じて理解する。				
		6 EUと周辺諸		農業の発展と地域統合に着目し、多様性と一体化をもつ産業の特徴やその歴史的背景、またこれからのヨーロッパ社会について主題図やグラフなどの資料をもとに理解する。				
		7 ロシア		寒冷な自然環境に着目し、ロシアを例に気候に制約を受ける農業や豊富な鉱物資源を背景にした他国との結びつきについて主題図やグラフなどの資料をもとに理解する。				
		8 アメリカ・カナダ		社会経済システムのグローバル化に着目し、多様な民族構成をもつ社会の歴史や多国籍企業が世界の経済や生活文化に影響を与えていることを主題図や写真などの資料をもとに理解する。				
		9 ラテンアメリカ		開発に着目し、多様な人々が生活している理由や産業の多様性がみられる理由について主題図やグラフなどの資料をもとに植民地時代の開発や近年の社会経済システムの変化から考察する。				
		10 オセアニア		開発に着目し、オーストラリアとニュージーランドの自然環境の違いを比較し、主題図や写真などの資料から植民の歴史とそこに展開する産業と両国の生活文化の違いを理解する。				
11 12 1	第4章 地球的課題と国際協力	1 地球環境	14	地球規模でおきている環境問題は一国だけでは対応できないこと、持続可能な地球社会の実現には多面的・多角的に考察することが必要であることを、SDGsをふまえて主体的に考察する。	行動観察 ワークシート 課題確認 定期考査 振り返りシート	○	○	○
		2 資源・エネルギー		地球規模でおこる資源問題について保有国・非保有国間の格差、資源の枯渇を認識してこれらの解決のためにSDGsと関連付けて考察する。				
		3 人口・食料		人口が急増している世界の現状を捉えるとともに、資料から人口問題の背景と構造を整理し、主題図やグラフなどの資料を集めて根拠をもとに対応策を構想する。				
		4 居住・都市		都市に人口が集まることを主題図やグラフから読み取り、問題の要因を理解しながら都市問題の改善をSDGsと関連付けて解決策を考察する。				
1 2 3	第5章 生活圏の諸課題	1 日本の自然環境と防災	14	日本列島の地形・気候・自然災害の特徴を、資料をもとに理解し、地図などを活用して災害の具体例を捉えたり防災・減災について思考したりする。	行動観察 ワークシート 課題確認 定期考査 振り返りシート	○	○	○
		2 生活圏の諸課題と地域調査		日本が抱える地域的な課題について、身近な地域を例に景観観察や聞き取りを通じた調査技能を身につけ、得られた結果を主題図などにまとめ、地域の活性化に向けたまちづくりのプランを発表する技能を身に付ける。				
			70					

4. 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	<ul style="list-style-type: none">○地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や地球的・地域的課題への取組などを理解している。○地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切に調べまとめる技術を身に付けている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none">○地理に関わる事象の意味や意義を概念として捉えて考察することができる。○考察に基づいて地理的課題を公正に判断することができる。○地理的課題について考察したり判断したりしたことを効果的に説明することができる。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none">○地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現に向けて主体的に解決しようとしている。○日本国民としての自覚と我が国の国土に対する愛情をもち、世界の多様な文化を尊重する態度を身に付けている。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・年4回の定期考査では、ペーパーテストによって出題範囲の習得状況を評価します。
- ・課題追求学習の際のレポートを評価のための資料とします。また、学習活動の様子や発表、討論などの様子も評価のための資料とします。
- ・自己評価、振り返りシートを評価の参考とします。

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5. 特に強調しておきたい点

地理に関する基礎的・基本的な学習を行っていきます。地理の学習は、地球上でおきているさまざまな現象に関心をもち、「なぜ」そのような現象がおきるのかを知るが目的です。よって学習においては、①地理的事象の因果関係を考えながら学習すること、②教科書に書かれていることを大切にすること、③地図帳を活用すること、④グラフや地図、統計などを読解する能力を高めること、⑤日ごろから新聞等に目を通し、現代社会の動向に目を配る、以上5つを大切に「暗記」だけでなく「思考」することを常に意識しましょう。

				に変換して確率が求められる。 ・二項分布を正規分布で近似して確率を求められる。				
9月	統計的な推測	8. 母集団と標本 (2) 9. 標本平均とその分布 (2) 10. 推定 (2) 11. 仮説検定 (3) 演習 (2)	11	・母集団分布と大きさ1の無作為標本の確率分布が一致することを理解し、母平均、母標準偏差が求められる。 ・標本平均の分布を正規分布で近似して確率を求めることができる。 ・推定に関わる用語・記号を適切に活用することができる。 ・信頼区間の考え方をを用いて、母平均や母比率の推定ができる。 ・仮説検定の意味を理解し、正規分布を用いた仮説検定ができる。	週末課題 行動観察 小テスト 振り返りシート	○	○	○
前期期末考査						○	○	
10月	数学C 第1章 平面上のベクトル							
	平面上のベクトルとその演算	1. 平面上のベクトル (1) 2. ベクトルの演算 (3) 3. ベクトルの成分 (2) 4. ベクトルの内積 (3) 演習 (2)	11	・有向線分を用いたベクトルの定義や表し方を理解できる。 ・ベクトルの演算の仕組みを理解し、ベクトルについて、加法、減法、実数倍を考察することができる。 ・ベクトルの分解について理解し、ベクトルを2つのベクトルの1次結合の形に表現できる。 ・成分表示されたベクトルを、2つのベクトルの1次結合の形に表現できる。 ・大きさとなす角でベクトルの内積を計算ができる。また、成分表示されたベクトルの内積を計算することができる。 ・内積の性質を理解し、計算に利用できる。	週末課題 行動観察 小テスト 振り返りシート	○	○	○
11月	ベクトルと平面図形	5. 位置ベクトル (2) 6. ベクトルと図形 (2) 7. ベクトル方程式 (4) 演習 (2)	10	・線分の内分点、外分点、三角形の重心を位置ベクトルで表す公式を理解している。 ・線分上の点を、線分をs : (1-s)に内分する点として処理できる。 ・直線のベクトル方程式について、媒介変数を用いて表すことができる。 ・ベクトルを用いて2直線のなす角を求めることができる。 ・円や円の接線のベクトル方程式を理解している。	週末課題 行動観察 小テスト 振り返りシート	○	○	○
後期中間考査						○	○	
12月	数学C 第2章 空間のベクトル							
		1. 空間の座標 (2) 2. 空間のベクトル (1) 3. ベクトルの成分 (1) 4. ベクトルの内積 (1) 5. 位置ベクトル (1) 6. ベクトルと図形 (3) 7. 座標空間における図形 (2) 演習 (2)	13	・空間図形において、ベクトルの和や差を考慮することができる。 ・成分表示されたベクトルの和、差の計算ができる。 ・成分表示されたベクトルを、3つのベクトルの1次結合の形に表現できる。 ・立体図形におけるベクトルの内積を、適切な方法で計算できる。 ・ベクトルの垂直条件を理解し、計算に利用できる。 ・ある点が3点で定まる平面上にあるための必要十分条件を理解し、それを利用することができる。 ・座標空間における線分の内分点・外分点などの座標が求められる。 ・座標軸に垂直な平面の方程式、球面の方程式について理解している。	週末課題 行動観察 小テスト 振り返りシート	○	○	○
1月	数学C 第3章 複素数平面							
		1. 複素数平面 (3) 2. 複素数の極形式と乗法、除法 (3) 3. ド・モアブルの定理 (3) 4. 複素数と図形 (5) 演習 (2)	17	・複素数平面上の点と複素数を1対1に対応させられる。 ・複素数を加えることは平行移動になることを理解できる。 ・複素数を極形式で表すことができる。 ・複素数の積や商の意味を図表示を通して理解し、問題に応用することができる。 ・ド・モアブルの定理を導き、n次方程式が解ける。	週末課題 行動観察 小テスト 振り返りシート	○	○	○
学年末考査						○	○	
			105					

4. 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	数列などの意味や原理・法則、用語・記号などを理解し、数学的な知識を身に付けている。 様々な事柄を数学的にとらえ、文字で表現したり方程式を解いたりする方法を身に付け、よりよく問題を解決することができる。
思考・判断・表現	主体的に問題を解決することを通して、文字に置き換えたり、帰納的に考えたりするなどの数学的な見方や考え方を身に付け、様々な事柄を数学的にとらえて論理的に考えたとともに、考えた道筋を振り返っているような解法を考えたり、さらに問題を発展的に考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	主体的に問題を解決することを通して、文字に置き換えたり、帰納的に考えたりするなどの数学的な見方や考え方の良さがわかり、それらを様々な事柄の考察に積極的に活用しようとしているか。 問題解決に向け、知識・技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりするなど、粘り強く取り組むことができる。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・年4回の定期考査(前期中間・前期期末・後期中間・学年末)
※各考査の出題範囲は各考査直前までの学習内容を基本とします。
- ・長期休暇明けの課題考査3回(春・夏・冬)
- ・単元の学習後に実施する小テスト
- ・週末課題・長期休暇に出題される課題
- ・学習への参加状況(数学的活動への取り組み状況、授業中の発言の内容等)

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5. 特に強調しておきたい点

数学を学習することにおいて留意することは、単に公式や定理を暗記して問題を解くだけではなく、数学の用語・記号・公式・定理などを理解して身に付け活用することです。そうでないと、忘れてしまった場合に公式や定理などを想起することができなくなります。また、数学を学習していく過程で、帰納的な考え方、演繹的な考え方など、数学特有の見方や考え方を学ぶこととなります。このような見方、考え方の良さを理解し、何が本質であるかを見抜くことが大切であり、この本質をつかむと、道のいろいろな事柄にも見通しをもって対処することができるようになります。数学の学習を通して、見通しをもち筋道立てて考え、判断できる力を身に付けるとともに、日常生活や社会生活において数学を積極的に活用することを期待します。

科目	数学ⅡⅢ		年次・コース	2年理系
単位数	4	使用教科書 「数学Ⅱ」（数研出版） 「数学Ⅲ」（数研出版）	副教材・問題集等	「4STEP 数学Ⅱ+B+C」（数研出版） 「4STEP 数学Ⅲ+C」（数研出版） 「Focus Gold 6th Edition 数学Ⅱ+B+ベクトル」（啓林館）

1. 科目の目標

式と証明・高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。

3. 学習の計画

月	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動（指導内容）と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4 5 月	数学Ⅱ 3章 図形と方程式							
	点と直線 円 軌跡と領域	1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の関係 5 円の方程式 6 円と直線 7 2つの円 8 軌跡と方程式 9 不等式の表す領域	2 4	<ul style="list-style-type: none"> 座標を用いて三角形や四角形などの基本的な平面図形の性質や関係を考察する 式を用いて直線の性質や関係を数学的に処理する 円とそれを表す方程式の関係を理解する 円と直線の位置関係が、2次方程式の解の判別に帰着できることを考察する 軌跡について理解し、軌跡を求めることができる 不等式の表す領域を求めたり、領域を不等式で表したりすることができる 座標平面上の図形について関係に着目し、それを方程式を用いて表し図形の性質や位置関係について考察する 	週末課題 課題テスト 振り返りシート 行動観察 小テスト	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
	数学Ⅱ 4章 三角関数							
	三角関数	1 一般角と弧度法 2 三角関数 3 三角関数の性質	5	<ul style="list-style-type: none"> 三角関数の基本的性質やグラフ、その周期性に興味をもち、理解を深めようとする。 角の概念を一般の角まで拡張して考えることができる。 三角関数の基本的な性質をグラフから考察することができる。 授業評価を実施する。 	週末課題 課題テスト 振り返りシート 行動観察 小テスト	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
	前期中間考査					○	○	
6 月	加法定理	4 三角関数のグラフ 5 三角関数の応用 6 加法定理 7 加法定理の応用 8 三角関数の合成 発展 和と積の変換公式	1 3	<ul style="list-style-type: none"> 三角関数の性質やグラフを理解し、方程式や不等式を解くことができる。 加法定理から、様々な公式を導くことができる。 加法定理などの公式を活用することができる。 三角関数の合成について理解し、活用できる。 加法定理や合成を用いて方程式や不等式を解くことができる。 三角関数で表された関数の性質を理解し、最大値と最小値を求めることができる。 和と積の変換公式を活用することができる。 	週末課題 課題テスト 振り返りシート 行動観察 小テスト	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
	数学Ⅱ 5章 指数関数・対数関数							

7月	指数関数	1 指数の拡張	8	・拡張された指数法則、累乗根について理解し、活用できる。	週末課題 振り返りシート 行動観察 小テスト	○	○	○
		2 指数関数	9	・指数関数のグラフをかき、関数値の増減の様子などを積極的に調べようとする。 ・指数関数のグラフから特徴を理解し、大小関係を調べたり方程式や不等式を解いたりすることができる。 ・指数関数の最大値・最小値を求めることができる。・対数と指数の関係について理解しようとする。	週末課題 振り返りシート 行動観察 小テスト	○	○	○
		3 対数とその性質	9	・対数の性質、底の変換公式について理解し、活用できる。 ・対数関数のグラフをかき、関数値の増減の様子などを積極的に調べようとする。 ・指数関数のグラフから特徴を理解し、大小関係を調べたり方程式や不等式を解いたりすることができる。 ・対数関数の最大値・最小値を求めることができる。 ・常用対数表を用いて様々な常用対数の値を求めることができる。 ・常用対数を利用して、桁数や小数第何位に0でない数字が現れるかが分かり、応用問題を解くことができる。		○	○	○
		4 対数関数						
		5 常用対数						
数学Ⅱ 6章 微分法と積分法								
8月	微分係数と導関数	1 微分係数 2 導関数	8	・微分係数や導関数についての考えのよさを認識し、事象を数学的に考察し処理しようとする。 ・導関数の定義を理解し、導関数の公式を用いて微分の計算できる。	週末課題 振り返りシート 行動観察 小テスト	○	○	○
	導関数の応用	3 接線 4 関数の値の変化 5 最大値・最小値 6 関数のグラフと方程式・不等式	11	・微分係数と接線の傾きの関係性を理解できる。 ・接線の公式を理解し、活用できる。 ・導関数の計算ができ、関数の増加、減少及び極値を調べ、グラフをかくことができる。 ・授業評価を実施する。 ・グラフを活用し、視覚的に最大値・最小値を求めようとする。 ・最大値・最小値を求めることができる。 ・3次方程式の解の個数とx軸との交点の個数の関係について理解できる。 ・グラフを活用して、不等式の証明ができる。				
10月	前 期 末 考 査					○	○	
	積分法	7 不定積分 8 定積分 9 面積	11	・不定積分の計算を積極的に取り組もうとする。 ・不定積分・定積分の計算ができる。 ・定積分を利用して、図形の面積を考察することができる。	週末課題 振り返りシート 行動観察 小テスト	○	○	○
11月	数学Ⅲ 1章 関数							
	関数	1 分数関数 2 無理関数 3 逆関数と合成関数	10	・分数関数や無理関数の基本的な性質を理解している。 ・分数関数や無理関数のグラフをかくことができる。 ・分数関数や無理関数の方程式・不等式をグラフを利用して解くことができる。 ・逆関数と合成関数を定義域、値域に注意して求めることができる。	週末課題 振り返りシート 行動観察 小テスト	○	○	○
	後 期 中 間 考 査					○	○	
12月	数学Ⅲ 2章 極限							
	数列の極限	1 数列の極限 2 無限等比数列 3 無限級数	6	・数列の極限を求めるために、適切な式変形を選択するなど、その極限を求める方法を考察することができる。 ・無限等比級数、循環小数の考察や図形への応用を通して、いろいろな無限級数の和を求めることができる。	週末課題 振り返りシート 行動観察 小テスト	○	○	○
	関数の極限	4 関数の極限 5 三角関数と極限 6 関数の連続性	6	・関数の極限を求めるために、適切な式変形を選択するなど、その極限を求める方法を考察することができる。 ・三角関数の極限に関心を持ち、図形への応用ができる。 ・関数の片側極限、連続性について理解を深めることができる。 ・関数の連続性をもとにして、中間値の定理を理解している。	週末課題 振り返りシート 行動観察 小テスト	○	○	○
	数学Ⅲ 3章 微分法							
1月	微分法	1 微分係数と導関数 2 導関数の計算	10	・ $(x^{\alpha})' = \alpha x^{\alpha-1}$ において、 α の範囲が自然数、整数、有理数と拡張されていくことを理解する。 ・関数の積及び商の導関数について理解し、関数の和差積商の導	週末課題 振り返りシート 行動観察 小テスト	○	○	○

		3 いろいろな関数の導関数		関数 を求める。 ・合成関数の導関数について理解し、合成関数の導関数を求める。 ・三角関数の導関数を理解し、三角関数を含む種々の関数の導関数を計算できる。 ・自然対数 e の定義と、対数関数の導関数を理解し、対数関数を含む種々の関数の導関数を計算できる。				
		4 第 n 次導関数		・高次導関数の定義、表記を理解し、種々の関数の高次導関数を求めることができる。				
		5 関数のいろいろな表し方と導関数		・ $F(x, y)=0$ で定められた関数や、媒介変数表示された関数の導関数を求めることができる。				
2 ・ 3 月	数学Ⅲ 4章 微分法の応用							
	導関数の応用	1 接線と法線	10	・種々の接線、法線の方程式を求めることができる。	週末課題 振り返りシート 行動観察 小テスト	○ ○	○	○ ○ ○
	学年末考査					○	○	
			140					

<学習内容についての補足説明>

- ・各章や単元の終わりに小テストを実施し、学習到達度の確認をします。

4. 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	基本的な概念や原理・法則、用語・記号などを理解し、数学的な知識を身に付けている。 また、基本事項を理解したうえで、それらの知識や数学的技能を応用した問題を解決する知識や技能を身に付けている。 社会の事象などから設定した問題について、数学Ⅰで学習した内容をもとに、事象を数学化したり数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりして問題を解決できる。
思考・判断・表現	主体的に問題を解決することを通して、文字に置き換えたり、帰納的に考えたりするなどの数学的な見方や考え方を身に付け、様々な事柄を数学的にとらえて論理的に考えるとともに、考えた道筋を振り返っていろいろな解法を考えたり、さらに問題を発展的に考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	主体的に問題を解決することを通して、数学的な見方や考え方の良さがわかり、それらを様々な事柄の考察に積極的に活用することができる。 問題解決に向け、知識・技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりするなど、粘り強く取り組むことができる。 学習目標を設定し見通しを立てたうえで学習に取り組み、内容の途中や終了時に目標と現時点との差を確認し次につなげることができる。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・年4回の定期考査(前期中間・前期期末・後期中間・学年末)
 - ※各考査の出題範囲は各考査直前までの学習内容を基本とします。
 - ・長期休暇明けの課題考査2回(夏・冬)
 - ・単元の学習後に実施する小テスト
 - ・週末課題・長期休暇に出題される課題
 - ・学習への参加状況(数学的活動への取り組み状況、授業中の発言の内容等)
- また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5. 特に強調しておきたい点

数学を学習することにおいて留意することは、単に公式や定理を暗記して問題を解くだけではなく、数学の用語・記号・公式・定理などを理解して身に付け活用することです。そうでないと、忘れてしまった場合に公式や定理などを想起することができなくなります。また、数学を学習していく過程で、帰納的な考え方、演繹的な考え方など、数学特有の見方や考え方を学ぶこととなります。このような見方、考え方の良さを理解し、何が本質であるかを見抜くことが大切であり、この本質をつかむと、道のいろいろな事柄にも見通しをもって対処することができるようになります。数学の学習を通して、見通しをもち筋道立てて考え、判断できる力を身に付けるとともに、日常生活や社会生活において数学を積極的に活用することを期待します。

物理基礎

令和8年度シラバス

教 科	理科	単位数	2 単位	年次・コース・組	2 年理系
使用教科書	高等学校 物理基礎 改訂版（啓林館）				
副教材等	「セミナー物理基礎」（第一学習社） 「らくらくマスター 物理基礎・物理」（河合出版）（物理選択者）				

1 学習の到達目標

物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を身につけるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
物理に関する基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などにおける操作や記録方法などの基本的な技能を身に付けている。	物理や物理現象に対する疑問を持ち、その解決に向けて、物理学的な知識をもとに考察できる。観察・実験などを通して、得られた結果を分析して考察できる。また、これらの過程において、自らの考えを、科学的根拠をもって表現し、議論することができる。	身近な物理現象に対して関心を持ち、知識・技能をもとにそれらの理解を深め、探求しようとしている。科学の発展に伴う現代の問題に対して、自らも社会の一員である自覚を持ち、自分の考えを表現し、議論しようという姿勢である。また、自らの取り組みを振り返り、評価して改善に努めている。

3 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む。）

月	単元名	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価方法	評価の観点		
					a	b	c
4月	第1部 「物体の運動とエネルギー」 第1章 [物体の運動]	<ul style="list-style-type: none"> ・速度 ・加速度 ・落体の運動 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな運動が変位、速度、加速度をもちいて式で表現できることに関心をもち、意欲的に探究できる ・等速直線運動と等加速度運動の考え方をを用いて、いろいろな落下運動について物理的に考察できる。 ・速度-時間のグラフ ($v-t$ グラフ) から、移動距離、加速度、等加速度運動の関係式を導出できる。 ・変位・速度・加速度についての基本的な考え方や法則、関係式を理解でき、その知識が身に付いている。 ・等速直線運動や等加速度運動についての考え方や関係式を理解でき、その知識が身に付いている。 	行動観察 ワークシート 振り返りシート	○	○ ○ ○	○ ○ ○
	第2章 [力と運動]	<ul style="list-style-type: none"> ・力 ・運動の法則 ・様々な運動 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな運動は力との関係があり、運動方程式で表現できることに関心をもち、意欲的に探究できる。力のつりあい、運動方程式の考え方をを用いて、いろいろな運動について物理的に考察できる。 ・いろいろな現象について力の作図をし、力の合成や分解をすることができる。力の作図より、力のつりあいの式、運動方程式を作ることができる。 ・力についての基本的な考え方や法則を理解できる。 ・運動の法則を理解し、その知識が身に付いている。 ・力のつりあいの考え方を理解できる。 	行動観察 ワークシート 振り返りシート	○	○ ○ ○	○ ○ ○

5月	第3章 [仕事とエネルギー]	<ul style="list-style-type: none"> 仕事 運動エネルギー 位置エネルギー 力学的エネルギーの保存 	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とエネルギーの関係に関心を持ち、いろいろな現象について意欲的に探究できる。 仕事と力学的エネルギーの考え方をを用いて、いろいろな現象について物理的に考察できる。 いろいろな現象について、力学的エネルギーと仕事の関係式で表現できる。 仕事についての考え方、原理を理解できる。 力学的エネルギーの考え方や関係式を理解でき、その知識が身に付いている。 運動の前後の力学的エネルギーと仕事の関係や力学的エネルギー保存則についての考え方、関係式を理解できる。 	行動観察 ワークシート 振り返りシート 前期中間考査	○	○	○
6月	第2部 「熱」 第1章 [熱とエネルギー]	<ul style="list-style-type: none"> 熱と温度 熱量 熱と仕事の変換 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろなエネルギーのかたちに関心を持ち、意欲的に探究できる。 熱量や温度、圧力などの物理量と分子の運動との関連性を考察できる。 熱力学第一法則、気体の状態方程式より、いろいろな気体の状態変化の特徴を考察できる。 圧力-体積のグラフから気体の状態変化を読み取ることができる。 温度や熱についての考え方や関係式を理解できる。 気体の状態を表す物理量の関係式を理解でき、その知識が身に付いている。 熱力学の第一法則および気体の状態変化について理解でき、その知識が身に付いている。 エネルギーの変換と保存について理解できる。 	行動観察 ワークシート 振り返りシート	○	○	○
	第3部 「波」 第1章 [波の性質]	<ul style="list-style-type: none"> 波と媒質の運動 波の伝わり方 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの波に係る現象について物理的に考察できる。 波の反射、屈折、回折をホイヘンスの原理から考察できる。 縦波の発生や、伝わり方をグラフで表現できる。 波の定常波、反射、屈折、回折を、図によって表現できる。 伝わる波の考え方、基本的な物理量とそれらの関係式について理解でき、その知識が身に付いている。 波の干渉、反射、屈折、回折などの性質についての考え方や原理、関係式を理解でき、その知識が身に付いている。 	行動観察 ワークシート 振り返りシート	○	○	○
7月	第2章 [音]	<ul style="list-style-type: none"> 音の性質 発音体の振動と共振・共鳴 	<ul style="list-style-type: none"> 音のいろいろな性質に関心を持ち、意欲的に探究できる。 音が波の性質をもつことより、音の性質を考察できる。 弦、開管、閉管の共鳴などの現象を物理的に考察できる。 弦、開管、閉管の共鳴について作図をして表現できる。 縦波としての音についての基本的な考え方、性質、関係式を理解でき、その知識が身に付いている。 弦、開管、閉管の共鳴についての考え方、関係式を理解でき、その知識が身に付いている。 	行動観察 ワークシート 振り返りシート	○	○	○
	第4部 「電気と磁気」 第1章 [静電気と電流]	<ul style="list-style-type: none"> 静電気 電流 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活と電気のかかわりや、電気の性質について関心を持ち意欲的に探究しようとする。 静電誘導の荷電粒子の動きを思考実験から考察できる。 模式図によって静電気の様子を表現できる。 静電気についての考え方を理解でき、その知識が身に付いている。 オームの法則について理解でき、知識が身に付いている。 	行動観察 ワークシート 振り返りシート 夏季課題考査	○	○	○
8月							
9月	第2章 [交流と電磁波]	<ul style="list-style-type: none"> 電磁誘導と発電機 交流と電磁波 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に関わり深い交流、電磁波に関心を持ち、意欲的に探究しようとする。 発電機のしくみより交流の発生するしくみを考察できる。 グラフより周期を読み取ることができる。 交流についての考え方を理解でき、物理量に関して基本的な知識が身に付いている。 電磁波についての基本的な知識が身に付いている。 	行動観察 ワークシート 振り返りシート	○	○	○
	第5編 「物理学と私たちの生活」 第1章 [エネルギー]	<ul style="list-style-type: none"> 様々なエネルギーとその利用 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー変換の例をあげ、その意味を探究しようとする。 摩擦力の存在と生活に与える効果を探究しようとする。 電気機器や超音波、X線の有効利用を探究しようとする。 エネルギー保存則を具体的な例で説明できる。 さまざまな種類の発電の長所と短所を考察できる。 加速、等速直線運動等における摩擦力の向きを考察できる。 	行動観察 ワークシート 振り返りシート 前期期末考査	○	○	○

9 月	とその利用] 第2章 【物理学が拓 く世界】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見えないものを見る ・ 組み合わせられる技術 ・ 巨大な橋を支える物理学 ・ 自身から建築物を守る技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 超音波検査とX線検査の違いや特徴を考察できる。 ・ 放射線測定器を用いて測定することができる。 ・ 靴底を観察し、摩擦力との関係を考察できる。 ・ 消費電力について理解し、定量的測定を考察できる。 ・ エネルギー資源の種類と長所、短所を理解している。特に原子力発電の仕組みと問題点を理解している。 ・ 身近なさまざまな場面で摩擦力の働きが利用されていることについて理解している。 ・ エネルギー保存則やエネルギー変換について知っている。 ・ 超音波検査やX線検査についての知識を獲得し、しくみや特徴を理解することができる。 				
--------	---	--	--	--	--	--	--

＜学習内容についての補足説明＞

物理基礎は2単位ですが、2年生の前半の半年間で学びます。したがって、前半の半年間は、週4時間の授業で学習し、半年間で終了します。後半の半年間は、物理選択者は「物理」を、生物選択者は「生物」を週4時間で学習していきます。

4 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の4つの観点から行います。	
a：知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○物理に関する基本的な概念や原理・法則などを正しく理解しているか。 ○観察・実験などにおける操作や記録方法などの基本的な技能を身に付けているか。
b：思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な物理現象に対する疑問を持ち、その解決に向けて、物理学的な知識をもとに考察できるか。 ○観察・実験などを通して、得られた結果を分析して考察できるか。 ○科学的に正確な情報を適切に選択できているか。 ○自らの考えを、科学的根拠をもって表現し、議論することができる。
c：主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な生物や生物現象に対して関心を持ち、探究しようとしているか。 ○科学の発展に伴う現代の問題に対して、自分の考えをもっているか。 ○学習の過程で、自らの考えを表現し、議論しようという姿勢であるか。
<p>このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査(前期中間・期末) ・小テスト ・ 長期休暇明けの課題考査(実力部分は含まない) ・ 実習レポート(観察・実験・演習への取り組み)・単元ごとの振り返りレポート(シート) <p>また、評定は、前期を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。</p>	

5 特に強調しておきたい点（留意すべき点・担当者からのメッセージを含む。）

<p>「物理基礎」の学習を通して、身近な物理現象やエネルギーなどについての理解を深めるとともに、自然界・宇宙においてはもちろん、日常生活や社会の中で、物理学が人々の生活や科学技術に果たしている役割も認識できるようになってほしいと思います。</p> <p>また、物理に限ったことではありませんが、これからの社会を生きていくうえで、次のような能力はとても重要になっていきます。したがって物理の学習においても、次のような能力を重要視していきますので、一人一人が意識して学習活動に向かって下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①体験から感じ取ったことを表現する。 ②事実を正確に理解し伝達する。 ③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。 ④情報を分析・評価し、論述する。 ⑤課題について、主体的に取り組み、自己反省し、評価改善する。 ⑥互いの考えを伝えあい、自らの考えや集団の考えを発展させる。 <p>みなさんが、物理の学習を通して、大きく成長されることを願っています。</p>

物理（2年）

科 目	物理	単位数	2単位	年次・コース・組	2年理系 物理選択者
使用教科書	「高等学校 物理」（啓林館）				
副教材等	「セミナー物理」（第一学習社） 「らくらくマスター 物理基礎・物理」（河合出版）				

1 学習の到達目標

物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を身につけるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
物理に関する基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などにおける操作や記録方法などの基本的な技能を身に付けている。	物理や物理現象に対する疑問を持ち、その解決に向けて、物理学的な知識をもとに考察できる。観察・実験などを通して、得られた結果を分析して考察できる。また、これらの過程において、自らの考えを、科学的根拠をもって表現し、議論することができる。	身近な物理現象に対して関心を持ち、知識・技能をもとにそれらの理解を深め、探求しようとしている。科学の発展に伴う現代の問題に対して、自らも社会の一員である自覚を持ち、自分の考えを表現し、議論しようという姿勢である。また、自らの取り組みを振り返り、評価して改善に努めている。

3 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む。）

月	単元名	使用教科書項目	予定時間	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価方法	評価の観点		
						a	b	c
10月	第1編 「力と運動」 第1章 [平面内の運動] 第2章 [剛体]	<ul style="list-style-type: none"> ・平面内の運動 ・落体の運動 ・剛体にはたらく力のつりあい ・剛体にはたらく力の合力と重心 	4 8	<ul style="list-style-type: none"> ・放物運動など身の回りの現象に関心を持ち、意欲的に探求できる。 ・ベクトルを用いることにより、放物運動などの現象を物理的に考察できる。 ・平面内の運動についての考え方が理解でき、その知識が身についている。 ・力の作図より、力のモーメントのつりあいの式を作ることができる。 ・力のモーメントのつりあいについての考え方を理解でき物理的にできる。 ・力の合成を利用して剛体の重心を求めることができる。 	行動観察 ワークシート 振り返りシート	○	○ ○ ○	○ ○ ○
10月 ・ 11月	第3章 [運動量の保存]	<ul style="list-style-type: none"> ・運動量と力積 ・運動量保存則 ・反発係数 	10	<ul style="list-style-type: none"> ・運動量を用いることによって運動の前後の様子を表現できることに関心を持ち、意欲的に探究できる。 ・運動量保存則を用いて分裂や衝突などの現象を物理的に考察できる。 ・作図により運動の前後の運動量と力積の関係について表現できる。 衝突、分裂などの現象を式で表現できる。 ・運動量や力積についての考え方を理解でき、その知識が身に付いている。 ・運動の前後の運動量と力積の関係および運動量保存則についての考え方、関係式を理解できる。 ・いろいろな衝突と反発係数についての考え方、関係式を理解でき、その知識が身に付いている。 	行動観察 ワークシート 振り返りシート	○	○ ○ ○	○ ○ ○

11 ・ 12 月	第2編 「熱と気 体」 第1章 [気体のエ ネルギー と状態変 化]	・気体の法則 ・気体分子の運動 ・気体の状態変化	10	・気体の性質を知ることにより、身の回りの熱現象に興味を持って探究できる。 ・物質の状態変化を考察できる。 ・気体の法則を物理的に理解できる。 ・気体の内部エネルギーを定量的に考察できる。 ・分子の熱運動を分子運動模型より考察できる。 ・熱現象の正体を、分子の熱運動と捉え、物質の状態変化を理解できる。 ・ボイル・シャルルの法則、気体の状態方程式が理解でき、気体の内部エネルギー概念より、気体の変化をエネルギー量として定量的に理解できる。	行動観察 ワークシート 振り返りシート 後期中間考査	○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
12 月	第4章 [円運動と 万有引力]	・等速円運動 ・慣性力	8	・円運動や慣性力の考えを用いて、現象を物理的に考察できる。 ・力の作図より円運動、単振動、慣性力を表現できる。 ・円運動や慣性力を式を用いて現象を表現できる。 ・円運動や単振動などの周期的な運動についての基本的な考え方、関係式を理解でき、その知識が身に付いている。 ・加速度運動のとき感じる慣性力についての考え方を理解できる。	行動観察 ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○
1		・単振動 ・万有引力	10	・単振動の考えを用いて、現象を物理的に考察できる。 ・単振動や万有引力を、式を用いて現象を表現できる。 ・惑星の軌道など周期的な運動の様子を表現できることに興味をもち、意欲的に探究できる。 ・ケプラーの法則と円運動の考え方から、万有引力の法則を導出できる。 ・ケプラーの法則、万有引力の法則についての考え方、関係式を理解でき、その知識が身に付いている。	行動観察 ワークシート 振り返りシート 冬季課題考査	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○
2 ・ 3 月	第3編 「波」 第1章 [波の伝わ り方] 第2章 [音の伝わ り方]	・波と媒質の運動 ・正弦波 ・波の伝わり方 ・音の伝わり方 ・音のドップラー 効果	6 6	・身の回りの波に関する現象について物理的に考察できる。 ・正弦波の式を導出できる。 ・波の伝わり方の基本的な考え方が理解できる。 ・音のいろいろな性質に関心をもち、意欲的に探究できる。 ・音の性質を波という観点から説明できる。 ・弦、開管、閉管の共鳴についての考え方、関係式を理解でき、その知識が身に付いている。 ・ドップラー効果を、音源が動く場合と観測者が動く場合について、違いを説明できる。	行動観察 ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○
	第3章 [光]	・光の性質 ・光の進み方 ・光の干渉と回折	8	・光のいろいろな性質に関心をもち、意欲的に探究できる。 ・光が波の性質をもつことより光の性質を考察できる。 ・光のいろいろな干渉現象を、物理的に考察できる。 ・いろいろな光の干渉現象を図によって表現し、説明できる。 ・光についての基本的な考え方、性質、関係式を理解できその知識が身に付いている。	行動観察 ワークシート 振り返りシート 学年末考査	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○
計			70					

<学習内容についての補足説明>

物理は2単位ですが、2年生の後半の半年間で学びます。したがって、後半の半年間は、週4時間の授業で学習し、半年間で終了します。

4 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。

a: 知識・技能	○物理に関する基本的な概念や原理・法則などを正しく理解しているか。 ○観察・実験などにおける操作や記録方法などの基本的な技能を身に付けているか。
b: 思考・判断・表現	○身近な物理現象に対する疑問を持ち、その解決に向けて、物理学的な知識をもとに考察できるか。 ○観察・実験などを通して、得られた結果を分析して考察できるか。 ○科学的に正確な情報を適切に選択できているか。 ○自らの考えを、科学的根拠をもって表現し、議論することができる。
c: 主体的に学習に取り組む態度	○身近な生物や生物現象に対して関心を持ち、探究しようとしているか。 ○科学の発展に伴う現代の問題に対して、自分の考えをもっているか。 ○学習の過程で、自らの考えを表現し、議論しようという姿勢であるか。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・定期考査(前期中間・期末) ・小テスト、単元テスト(随時)
- ・長期休暇明けの課題考査(実力部分は含まない)
- ・実習レポート(観察・実験・演習への取り組み)・単元ごとの振り返りレポート(シート)

また、評定は、後期を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5 特に強調しておきたい点（留意すべき点・担当者からのメッセージを含む。）

「物理」の学習を通して、身近な物理現象やエネルギーなどについての理解を深めるとともに、自然界・宇宙においてはもちろん、日常生活や社会の中で、物理学が人々の生活や科学技術に果たしている役割も認識できるようになってほしいと思います。

また、物理に限ったことではありませんが、これからの社会を生きていくうえで、次のような能力はとても重要になっていきます。したがって物理の学習においても、次のような能力を重要視していきますので、一人一人が意識して学習活動に向かって下さい。

- ①体験から感じ取ったことを表現する。
- ②事実を正確に理解し伝達する。
- ③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。
- ④情報を分析・評価し、論述する。
- ⑤課題について、主体的に取り組む、自己反省し、評価改善する。
- ⑥互いの考えを伝えあい、自らの考えや集団の考えを発展させる。

みなさんが、物理の学習を通して、大きく成長されることを願っています。

化学（2年理系）

科目	化学	単位数	2単位	年次・コース・組	2年 理系
使用教科書	化学（数研出版）				
副教材等	問題集 セミナー化学（第一学習社） 化学基礎・化学 重要問題集（数研出版） 図表 ニューステージ新化学図表（浜島書店）				

1 学習の到達目標

- ① 自然の事物・現象に関することを題材にして、基本的な概念、原理、法則を理解すること。
- ② 実験や観察を通して、科学的な自然観を身に付けること。
- ③ 物質をよく知ることにより、現代社会をより広い視野で捉え、的確な判断を下すことができるようになること。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
化学に関する基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などにおける操作や記録方法などの基本的な技能を身に付けている。	化学や化学反応に対する疑問を持ち、その解決に向けて、科学的な知識をもとに考察できる。観察・実験などを通して、得られた結果を分析して考察できる。また、これらの過程において、自らの考えを、科学的根拠をもって表現し、議論することができる。	身近な化学現象に対して関心を持ち、知識・技能をもとにそれらの理解を深め、探究しようとしている。科学の発展に伴う現代の問題に対して、自らも社会の一員である自覚を持ち、自分の考えを表現し、議論しようという姿勢である。また、自らの取り組みを振り返り、評価して改善に努めている。

3 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む。）

月	単元名	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価方法	評価の観点		
					a	b	c
4	第1編 第1章 粒子の結合と結晶	1. 原子とイオン 2. イオン結合とイオン結晶 3. 分子と共有結合 4. 分子間にはたらく力 5. 共有結合結晶 6. 金属結合と金属結晶 7. 非晶質	1～6. 各種結晶が原子のどのような結合及び力が働いて成立しているかを言及することができる。 7. 結晶との違いを確認する。	行動観察 課題確認 小テスト 実験	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
5	第2章 物質の状態変化	1. 粒子の熱運動 2. 三態の変化とエネルギー 3. 気液平衡と蒸気圧	1. 粒子の熱運動について事実を確認する。 2. 粒子の熱運動と各粒子間の結合及び力との兼ね合いが三態変化につながっていることを説明できる。 状態変化に伴う熱量を算出できる。 3. 物質の物理的性質について、粒子間に働く力及び結合等によって説明することができる。	行動観察 課題確認 小テスト 実験	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
前期中間考査					○	○	○
6	第3章 気体	1. 気体の体積 2. 気体の状態方程式 3. 混合気体の圧力 4. 実在気体	1. ボイルシャルルの法則が説明でき、使うことができる。 2. 気体の状態方程式の導出過程がわかり、使うことができる。 3. ドルトンの分圧の法則等を理解でき、使用できる。 4. 理想気体と実在気体の差について言及できる。	行動観察 課題確認 小テスト 実験	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○

7・8	第4章 溶液	1. 溶解とそのしくみ 2. 溶解度	1. イオン結晶と分子結晶の溶解性の違いが説明できる。 2. 気体と固体の溶解度について理解できる。	行動観察 課題確認 小テスト 実験	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
9		3. 希薄溶液の性質 4. コロイド溶液	3. 沸点上昇、凝固点降下、浸透圧の仕組みがわかり、その度合いを算出することができる。 4. 身近なコロイドを認識し、コロイド溶液の持つ特殊な性質について言及できる。	行動観察 課題確認 小テスト 実験	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
前期期末考査					○	○	○
10	第2編 第1章 化学反応 とエネルギー	1. 化学変化と熱 2. 化学反応と光	1. 化学反応の種類と反応熱、および状態変化に伴う熱などの種類と定義がわかり、熱化学方程式で示することができる。ヘスの法則を使うことができる。結合エネルギーの概念がわかる。 2. 化学反応と光との関係について理解できる。	行動観察 課題確認 小テスト 実験	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
11	第3章 化学反応 の速さと しくみ	1. 化学反応の速さ 2. 反応条件と反応速度 3. 化学反応のしくみ	1. 反応速度を数値で表すことができる。 2. 反応速度を変える条件がわかる。 3. 化学反応の進み方がわかる。	行動観察 課題確認 小テスト 実験 課題考査	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
後期中間考査					○	○	○
12	第4章 化学平衡	1. 可逆反応と化学平衡 2. 平衡状態の変化	1. 可逆反応を学び、その平衡状態は平衡定数で表されることがわかる。(濃度平衡定数、圧平衡定数) 2. 平衡状態の変化をルシャトリエの原理等で示すことができる。	行動観察 課題確認 小テスト 実験	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
1		3. 電解質水溶液の化学平衡	3. 弱酸・弱塩基の水溶液、及び塩の水溶液や緩衝液に関して平衡定数を用いて pH を求めることができる。溶解度積についても理解する。	行動観察 課題確認 小テスト 実験	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
2・3	第3編 第1章 非金属元 素	1. 元素の分類と周期表 2. 水素 3. 希ガス元素 4. ハロゲン元素	1. 周期表上における元素の陽性や陰性の程度等について言及できる。 2. 水素の単体や化合物の性質について理解している。 3. 希ガス元素の性質について理解している。 4. ハロゲン元素の単体や化合物の性質について理解している。	行動観察 課題確認	○ ○	○ ○	○ ○
学年末考査					○	○	○

<学習内容についての補足説明> (授業の形態等の詳細な説明も含む。)

提出物が予定日に出揃うようにしてください。理論を確認しながら問題集にしっかり取り組めば、かなり力がつきます。また、化学基礎に比べて計算の難度が上がるので、計算過程をしっかりと書くようにしましょう。

4 評価の観点・方法 (及び年間の評定)

評価は、次の3つの観点から行います。	
知識・技能	○化学に関する基本的な概念や原理・法則などを正しく理解しているか。 ○観察・実験などにおける操作や記録方法などの基本的な技能を身に付けているか。
思考・判断・表現	○化学や自然科学に対する疑問を持ち、その解決に向けて化学的な知識をもとに考察できるか。 ○観察・実験などを通して、得られた結果を分析して考察できるか。 ○科学的に正確な情報を適切に選択できているか。 ○自らの考えを、科学的根拠をもって表現し、議論することができる。

主体的に学習に取り組む態度

- 身近な化学反応に対して関心を持ち、探究しようとしているか。
- 科学倫理や環境問題など、科学の発展に伴う現代の問題に対して、自分の考えをもっているか。
- 学習の過程で、自らの考えを表現し、議論しようという姿勢であるか。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・ 2回の定期考査(後期中間・学年末) ※各考査の出題範囲は各考査直前までの学習内容を基本とします。
- ・ 長期休暇明けの課題考査(冬)
- ・ 週末課題・長期休暇に出題される課題
- ・ 学習への参加状況(授業態度、実験への取り組み等)
- ・ 小テスト(または、単元テスト)
- ・ 振り返りシート

5 特に強調しておきたい点(留意すべき点・担当者からのメッセージを含む。)

- 1 日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則性について考える態度をもつこと。
- 2 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。
- 3 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。
- 4 暗記しなければならないことと、考えれば解ることを整理すること。

また、科学的事象に目を向け、大学で開催される各種実験実習講座に参加することも皆さんの大きな財産となります。是非積極的に参加し、科学の世界を体感してください。

11				5. 生物の遺伝情報に関する資料に基づいて、生物の系統と塩基配列やアミノ酸配列との関係を見いだして理解すること。 6. 霊長類に関する資料に基づいて、人類の系統と進化を形態的特徴などと関連付けて理解すること。				
12	第2章 細胞と分子	1 生命物質と細胞 2 タンパク質の構造と性質 3 化学反応にかかわるタンパク質 4 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質	20	1. 生体物質と細胞に関する資料に基づいて、細胞を構成する物質を細胞の機能と関連付けて理解すること。 2. 3. 4. 生命現象とタンパク質に関する観察、実験などを行いタンパク質の機能を生命現象と関連付けて理解すること。	行動観察 実験中の行動観察 実験レポート 振り返りシート	○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○
1	第3章 代謝	1 代謝とエネルギー 2 呼吸と発酵	10	2. 呼吸に関する資料に基づいて、呼吸をエネルギーの流れと関連付けて理解すること。	行動観察 実験中の行動観察 実験レポート 振り返りシート	○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○
		3 光合成	10	3. 光合成に関する資料に基づいて、光合成をエネルギーの流れと関連付けて理解すること。	冬課題考査	○ ○		○ ○
2	第4章 遺伝子の発現と発生	1 DNAの構造と複製 2 遺伝情報の発現	10	1. 2. DNAの複製に関する資料に基づいて、DNAの複製の仕組みを理解すること。また、遺伝子発現に関する資料に基づいて、遺伝子の発現の仕組みを理解すること	行動観察 学年末考査	○ ○		○ ○
			70					

4. 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。	
知識・技能	○生物に関する基本的な概念や原理・法則などを正しく理解しているか。 ○観察・実験などにおける操作や記録方法などの基本的な技能を身に付けているか。
思考・判断・表現	○生物や生物現象に対する疑問を持ち、その解決に向けて、生物学的な知識をもとに考察できるか。 ○観察・実験などを通して、得られた結果を分析して考察できるか。 ○科学的に正確な情報を適切に選択できているか。 ○自らの考えを、科学的根拠をもって表現し、議論することができる。
主体的に学習に取り組む態度	○身近な生物や生物現象に対して関心を持ち、探究しようとしているか。 ○生命倫理や環境問題など、科学の発展に伴う現代の問題に対して、自分の考えをもって考えるか。 ○学習の過程で、自らの考えを表現し、議論しようという姿勢であるか。
このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。	
・年2回の定期考査(後期中間・学年末) ・長期休暇明けの課題考査1回(冬) ・実習レポート(観察・実験・演習への取り組み)・単元ごとの振り返りレポート また、1年間の評定は、後期を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。	

5. 特に強調しておきたい点

中学理科または生物基礎で学んだことを生かしながら、より詳細な生物現象の仕組みを学んでいきます。生物の分野は、科学技術の発展に伴って新しい事が日々明らかになり、また様々なものに応用されています。その根幹となる基本的な概念や原理・法則などを授業で理解し、身近な生物や生物現象に疑問を持って、楽しんで日々学んでいきましょう。1回1回の授業を大切にして、授業後に要点を自分でまとめていくと良いと思います。

科 目	体育			年次・コース	2年
単 位 数	3	使用教科書	高等学校保健体育 (第一学習社)	副教材・問題集等	高等学校保健体育ノート (第一学習社)

1. 科目の目標

- 1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。
- 2) 生涯にわたって、運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- 3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって、運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。

3. 学習の計画

月	単元名	指 導 項 目	予定時間	主な学習活動（指導内容）と評価のポイント	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4月	体づくり運動	オリエンテーション 体ほぐしの運動 体力を高める運動	13	<ul style="list-style-type: none"> • 体育を学ぶ意味を理解し、学習意欲を高める。 • 身体の様々な部位を動かすことで心地よさや楽しさを味わう。 • 仲間との活動を通して交流を深める。 • 自ら身体活動を創意工夫することにより、自己に適した実践力を身に付ける。 	※体づくり運動は評価しない			
5・6月	体育理論 陸上競技	男子 ・ハードル走 (80mH) ・走り高跳び 女子 ・ハードル走 (50mH) ・ジャベリックスロー	16	<ul style="list-style-type: none"> • 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、短距離走では後半でスピードが著しく低下しないよう、力みのないリズムカルな動きで走る。跳躍種目では、助走のスピードとリズムカルな動きを生かして力強く踏み切り、より遠くへ跳んだりより高く跳んだりできるようにする。投擲種目では、保持姿勢・助走について目標を設定し、達成に向けて練習する。 • 自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について自己の考えを伝える。 • 自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする。 	行動観察 記録会 自己評価表	○ ○ ○	○	○ ○
7・8・9月	体育理論 球技 I	男子 ・ソフトボール 女子 ・ハンドボール	17	<ul style="list-style-type: none"> • 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。 • 攻防での自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。 • 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしたり、互いに助け合い教え合ったり、健康・安全を確保する。 	行動観察 スキルテスト ゲーム評価 自己評価表	○ ○ ○	○ ○	○ ○
10・11月	体育理論 球技 II	男子 ・バレーボール 女子 ・サッカー	15	<ul style="list-style-type: none"> • ゲームに必要な技術と関連させた補助運動や部分練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができる。 • 作戦などの話合いの場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝える。 • 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとする。 	行動観察 スキルテスト ゲーム評価 自己評価表	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○
11月	陸上競技	長距離走	9	<ul style="list-style-type: none"> • 距離走では、自己に適したペースを維持して、一定の距離を走り通し、タイムを短縮したり、競争したりできるようにする。 • 健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返る。 • 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にす。 	行動観察 記録会 自己評価表	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○

12月	球技Ⅲ	男子 ・サッカー 女子 ・バドミントン	15	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームなどを通して、その種目の楽しさを味わいながら個人やチームの課題を設定し、その解決に向けての練習を工夫する。 ・個人やチームの能力に応じて作戦を立て、持っている技能を最大限生かしてゲームを行う。 ・ゲームの企画や運営・審判を行う。 	行動観察 スキルテスト ゲーム評価 自己評価表	○	○	○
1・2月	器械運動 ダンス	男子 ・鉄棒 ・マット運動	20	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄棒運動では、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに安定して行ったり発展技を行ったりする。またそれらを構成し演技する。マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行ったり発展技を行ったりする。 ・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝える。 ・主体的に取り組むとともに、よい演技を讃え、互いに助け合い教え合おうとする。また一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする。 	行動観察 自己評価表 相互評価表 発表会	○	○	○
		女子 ・リズムダンス ・創作ダンス		<ul style="list-style-type: none"> ・リズムの特徴を捉え、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って全身で弾んで踊ることができるようにする。 ・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。 ・主体的に取り組むとともに、互いに共感して高め合い、合意形成に貢献しようとする。また一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとする。 				
年間授業時間数			105					

<学習内容についての補足説明> (授業の形態等の詳細な説明も含む。)

*服装について

- ・指定された体操服上下及び体育館シューズを使用する。
- ・髪の毛については、肩より長い場合はしばること。

*見学について

- ・体調不良などの理由で授業を見学する場合は、事前に授業担当者に申し出ること

*体育当番について

- ・事前に授業担当者へ授業内容の確認へ行くこと、全員への連絡を行うこと。
- ・列の前で整列・挨拶・準備体操の指示、授業後の片付けを行う。

*その他

- ・所定の場所で更衣をし、始業時間を厳守すること。
- ・器具や用具については、毎時間安全確認を行う。

4. 評価の観点・方法 (及び年間の評定)

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の意義や必要性及び運動の特性を理解し、知識を身に付けている。 ・規則やルール及び審判法を理解して試合(ゲーム)に臨んでいる。 ・運動の特性及び事故やグループ(チーム)の能力に応じて技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに体力を高めるための運動を合理的に実践できる。また、課題の解決、記録の向上、チーム力の向上を目指し技能を高めている
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の特性及び自己やグループ(チーム)の能力に応じて課題の解決を目指し、運動の合理的な行い方や計画的な活動の仕方を考え工夫している。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように、自ら進んで計画的に運動しようとしている。 ・厚生、協力、責任などの態度を身に付け、安全に配慮している。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・行動観察(授業態度)
- ・記録会
- ・スキルテスト、ゲーム評価
- ・自己評価表、相互評価表

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5. 特に強調しておきたい点

体育の授業では誰もが運動の楽しさを味わうことができます。そのためには、自ら進んで運動しようという意欲がとても大切です。ただ、体を動かすだけではなく、自己や仲間と課題を見つけ、その解決に努力するとともに、運動の特性を理解して運動する習慣を身に付けてください。その積み重ねが、体力の向上と運動技能の向上につながり、一層の楽しさへと発展します。さらに、それが生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する礎となるのです。

保 健

令和8年度シラバス

科 目	保健			年次・コース	2年
単位数	1	使用教科書	高等学校保健体育 (第一学習社)	副教材・問題集等	保健体育ノート (第一学習社)

1. 科目の目標

- (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能（技術） a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
・個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。	・個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に表現している。	・健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

3. 学習の計画

月	単元	指 導 項 目	予定時間	主な学習活動（指導内容）と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4 ・ 5 ・ 6 月	第3章 生涯を通じる健康	第1節 生涯の各段階における健康 ① 思春期と健康 ② 思春期の体と健康 ③ 結婚生活と健康 ④ 新しい生命の誕生 ⑤ 家族計画と不妊治療 ⑥ 加齢と健康	9	性への意識・行動には個人差がある ・青年期とはどのような時期か説明できる ・性情報を入手する際に気をつけることは何なのか 性の違いを理解し、互いに尊重し合う ・思春期の男女の体に起こる変化とは、どのようなものか理解する パートナーと協力して支える健康 ・健康な結婚生活を送り、家族の健康をまもるためにはどのようにすべきか 母子の健康には周りのサポートが大切 ・妊娠・出産の過程で、家族や周りが配慮すべきことは何だろうか 子どもが望まれて生まれてくるために ・家族計画を立てる場合、どのような点に留意しておくべきだろうか 高齢社会を豊かに生きる ・加齢によって、どのような健康課題が現れるのか考える	行動観察 発言 ワークシート	○	○	○
		第2節 労働と健康 ① 労働者の健康・安全と健康問題 ② 労働災害・職業病とその予防 ③ 労働者の健康づくりと「働き方改革」		7	職場のメンタルヘルスケア ・労働者の健康・安全を守るために何が行われ、過重労働やストレスはどのような健康問題を生じるか理解する 労働災害を防止するために ・職業病や労働災害を防ぐためにはどのような対策や方法があるだろうか 働きやすい環境をめざして ・働き方改革はなぜ必要なのか考える	行動観察 発言 ワークシート	○	○
9月		・前期末考査	1		既習事項のまとめ	ノート確認 考査	○	○

10 ・ 11 ・ 12 月	第4章 健康を支える環境づくり	第1節 環境・食品と健康	9	むしばまれていく自然環境 ・なぜ環境汚染や公害は生じたのか理解し、地球環境問題が重大な問題で、対策が難しいことを理解する 古くて新しい問題 大気汚染 ・大気汚染防止・軽減のためにはどのような努力がなされているだろうか 日常生活とつながる水・土壌の汚染 ・水と土壌の汚染は、健康にどのような影響をもたらし、どのような対策がなされているのか理解する 環境汚染を防ぐさまざまな取り組み ・不適正処理の廃棄物は健康にどのように影響するか考える 環境にやさしいライフスタイルの選択 ・ゴミの減量のためにはどのような行動を取るべきか考える 安全な食品を選ぶ ・食品による健康被害に対し、消費者に何が求められているか考える	行動観察 発言 ワークシート	○	○	○
		① 環境汚染の広がりとその影響 ② 大気汚染の健康への影響と対策 ③ 水質汚濁と土壌汚染の健康への影響と対策 ④ 廃棄物の処理と健康 ⑤ 環境衛生活動 ⑥ 食品の安全性の確保						
12 ・ 1 ・ 2 月		第2節 保健・医療制度と機関	8	だれもが必要な医療を受けるためのしくみ ・日本の医療保険制度は、どのようなしくみになっているか理解する 知っておきたい地域の保健・医療機関 ・保健・医療機関を活用する際には、何に留意すればよいか考える 正しく服用して効果を高める ・医薬品を正しく使用するために、必要な知識と対策を理解する ライフステージに合わせた保健活動 ・世界ではどのような組織でどのような保健活動が実施されているか理解する 積極的なプロモーションの推進 ・ヘルスプロモーションに基づいた健康づくりとはどのようなものか	行動観察 発言 ワークシート	○	○	○
		① 保健・医療制度 ② 地域の保健機関・医療機関の活用 ③ 医薬品と健康 ④ さまざまな保健活動や社会的対策 ⑤ 健康に関する環境づくりと社会参加 教科横断的学習 (課題発見力・主体性)						
3 月		・学年末考査	1	既習事項のまとめ	ノート確認 考査	○	○	○
年間授業時間数			35					

<学習内容についての補足説明> (授業の形態等の詳細な説明も含む。)

- 1年次に第1章「現代社会と健康」、第2章「安全な社会生活」を学習します。
 2年次に第3章「生涯を通じる健康」、第4章「健康を支える環境づくり」を学習します。

4. 評価の観点・方法 (及び年間の評定)

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	個人生活や社会生活における健康・安全についての課題の解決に向けて、基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
思考・判断・表現	個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・年2回の定期考査 (前期期末考査・学年末考査)
- ・学習への参加状況 (授業態度・発言・プリント・ノート)

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5. 特に強調しておきたい点

健康を願わない人はいません。また、人々が常に理想的な健康状態を維持することは易しいことではありません。そんな中、高校生の時期に保健を学習する事は、非常に重要な意味を持っています。人間の生活にとって、健康は生涯を通じて重要な土台となるからです。より豊かで健康的な生活が送れるよう健康について考えるとともに、実践する力を身につけてほしいと思います。

英語コミュニケーションⅡ

科目	英語コミュニケーションⅡ		年次・コース	2年生 文系・理系
単位数	4	使用教科書	Heartening English Communication Ⅱ (桐原書店)	
副教材・問題集等	システム英単語〈5訂版〉(駿台文庫)、Upgrade英文法・語法問題(数研出版)、英語総合問題集 Wonderland 3,4(いっずな書店)、Keys to Listening2(数研出版)			

1. 科目の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。

(1) 聞くこと

- ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。
- イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

(2) 読むこと

- ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。
- イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

(3) 話すこと [やり取り]

- ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。
- イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝え合うことができるようにする。

(4) 話すこと [発表]

- ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。
- イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。

(5) 書くこと

- ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。
- イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その知識を実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できるか。	英語で情報や考えなどを的確に理解し、適切に表現したり伝えたりしているか。	英語の背景にある文化を理解し、主体的、自律的にコミュニケーションを図ろうとしているか。

3. 学習の計画

月	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動(指導内容)と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4月		授業について	1	学習の意味を理解し、学習意欲を高める。				
	Lesson 1	Laughter without Borders	10	海外で狂言を広めている、チェコ出身のオンジェイ・ヒーブル氏へのインタビューを読む。伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の発展に寄与する態度を養う。	活動の観察 小テスト ワークシート 課題・レポート 振り返りシート	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○

5月	Lesson 2	The Ongoing Voyages of Curry	6	インドのカレーがどのように日本のカレーへと変貌したかについての説明文を読む。伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の発展に寄与する態度を養う。	活動の観察 小テスト ワークシート 課題・レポート 振り返りシート	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
	Lesson 3	The World's Most Bicycle-friendly City	7	コペンハーゲンがどのようにして世界有数の自転車都市となったかについての説明文を読む。環境の保全に寄与する態度や、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。	活動の観察 小テスト ワークシート 課題・レポート 振り返りシート	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
6月	前期中間考査・パフォーマンステスト		2			○	○	
	Lesson 4	Can You Feel Emotions in Text?	7	国や文化による顔文字の違いについての論証文を読む。幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度や、他国を尊重し、国際社会の発展に寄与する態度を養う。	活動の観察 小テスト ワークシート 課題・レポート 振り返りシート	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
7月	Real Life English 1	How to Explain Japanese Food	6	アメリカ留学中の主人公になって、日本食を題材にロールプレイングやディスカッションをする。自他の敬愛と協力を重んじる態度や、他国の文化を尊重する態度を養う。	活動の観察 小テスト ワークシート 課題・レポート 振り返りシート	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
	Reading 1	The Joker	13	ジョーク好きの男性の遺言をめぐる相続人たちの滑稽な様子と、故人を偲ぶ心情を描いた物語作品を読む。豊かな情操と道徳心を培う。	活動の観察 小テスト ワークシート 課題・レポート 振り返りシート	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
8・9月	Lesson 5	Background Music and Sharks	13	サメの動画において、そのBGMが人に与える影響について述べた報告文を読む。幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度や、環境の保全に寄与する態度を養う。	活動の観察 小テスト ワークシート 課題・レポート 振り返りシート	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
	前期期末考査・パフォーマンステスト		2			○	○	
10月	Lesson 6	The Benefits of Play	7	遊びが成長にもたらす利点についての説明文を読む。個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培うとともに、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う。	活動の観察 小テスト ワークシート 課題・レポート 振り返りシート	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
	Lesson 7	Nursing in a War Zone	7	国境なき医師団の看護師、白川優子氏の活動についての物語文を読む。主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度や、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う。	活動の観察 小テスト ワークシート 課題・レポート 振り返りシート	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
11月	Lesson 8	Hawaii's Debate about a Sacred Mountain	7	神聖な山に最新の望遠鏡を設置すべきかについて、対立する2者の意見文を読む。伝統と文化を尊重する態度や、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。	活動の観察 小テスト ワークシート 課題・レポート 振り返りシート	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
	Real Life English 2	How to Deal with Tipping Etiquette	6	アメリカ留学中の主人公になって、チップ制度を題材にロールプレイングやディスカッションをする。自他の敬愛と協力を重んじる態度や、他国の文化を尊重する態度を養う。	活動の観察 小テスト ワークシート 課題・レポート 振り返りシート	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
	後期中間考査・パフォーマンステスト		2			○	○	
12月	Reading 2	The Selfish Giant	13	自己中心的だった大男が改心し、子どもたちと交流を深める様子を描いた物語作品を読む。豊かな情操と道徳心を培う。	活動の観察 小テスト ワークシート 課題・レポート 振り返りシート	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
1月	Lesson 9	The Next Wave in Artificial Intelligence	13	人工知能の最新技術やロボットとの共生についての説明文と意見文を読む。主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。	活動の観察 小テスト ワークシート 課題・レポート 振り返りシート	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○

2 ・ 3 月	Lesson 10	What If There Were No Moon?	8	月が地球に及ぼしている影響についての説明文を読む。幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う。	活動の観察 小テスト ワークシート 課題・レポート 振り返りシート	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
	Real Life English 3	How to Explain St. Patrick's Day	8	アメリカ留学中の主人公になって、セント・パトリックス・デーを題材にロールプレイングやディスカッションをする。自他の敬愛と協力を重んじる態度や、他国の文化を尊重する態度を養う。	活動の観察 小テスト ワークシート 課題・レポート 振り返りシート	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
	学年末考査・パフォーマンステスト		2			○	○	
			140					

<学習内容についての補足説明> (授業の形態等の詳細な説明も含む。)

- ・授業は基本的には英語で行われます。
- ・ペアで自分の考えや意見を伝え合う活動が定期的に行われます。

4. 評価の観点・方法 (及び年間の評定)

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その知識を実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できるか。
思考・判断・表現	英語で情報や考えなどを的確に理解し、適切に表現したり伝えたりしているか。
主体的に学習に取り組む態度	英語の背景にある文化を理解し、主体的、自律的にコミュニケーションを図ろうとしているか。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・年4回の定期考査
- ・各種小テスト
- ・発表活動（ディスカッション、プレゼンテーション）では、①話し方（アイコンタクト・声の大きさ）、②内容（トピックとの関連性）、③英語（正しい発音と抑揚・語彙の使用状況）を評価します。
- ・提出物
- ・学習活動への参加の状況（ペアワーク、グループワークの取組等）

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5. 特に強調しておきたい点

英語は、毎日学習することが大切です。この計画を参考にして、進んで学習する習慣を身に付けましょう。授業は原則として英語で行われます。知らない単語や表現が聞こえてきても、ビジュアルエイドやジェスチャーなどを手がかりにして理解に努めましょう。1年間、英語漬けになることで、リスニング力ばかりでなく、素早く英文を理解する力、語彙力も確実に伸ばすことができます。ただ、どうしても推測できない単語や表現は辞書を使って確認する作業を怠らないようにしましょう。英語を上達させるには、読んだり、聞いたりした表現を自分のものにし、表現活動で使用することが必要です。音読活動に毎日取り組むとともに、学習した表現はスピーキングやライティング活動で積極的に用いるようにしましょう。

科目	外国語		年次・コース	2年・理系
単位数	2	使用教科書	Be English Logic and Expression II Smart (いいずな書店)	
副教材・問題集等	Be English Logic and Expression II Smart Grammar Book (いいずな書店)、新・英語の構文150 UPGRADED (美誠社)、Clues to Reading (数研出版)			

1. 科目の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。

(1) 話すこと [やり取り]

日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合ったり、立場や状況が異なる相手と交渉したりすることができるようにする。また、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張、課題の解決策などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができるようにする。

(2) 話すこと [発表]

日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。また、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。

(3) 書くこと

日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。また、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解しているか。	英語で情報や考えなどを的確に理解し、適切に伝えているか。	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているか。

3. 学習の計画

月	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動（指導内容）と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4月	Lesson 1	授業について Future Plans	1 5	学習の意味を理解し、学習意欲を高める。 自分の将来の夢について他者に伝える。 【題材に関するタスク】 ・将来の夢に関する文章を読んだり聞いたりして理解する。 ・夢について話したり、文章を書いたりする。 【文法】 ・動詞の時制について学んで理解する。 ・時や状況に応じて動詞の時制を正しく使う。	活動の観察 ワークシート エッセイライティング 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○
5月	Lesson 2	Free Time at Home	5	家で過ごす時間について他者に伝える。 【題材に関するタスク】 ・家で過ごす時間について、文章を読んだり聞いたりして理解する。 ・家で過ごす時間について話したり、文章を書いたりする。 【文法】 ・不定詞（名詞用法）・動名詞・名詞節について学んで理解する。 ・伝えたいことに応じて、不定詞・動名詞・名詞節を正しく使う。	活動の観察 ワークシート エッセイライティング 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○
6月	Lesson 3	Student Life	5	学校生活について他者に伝える。 【題材に関するタスク】 ・学校生活に関する文章を読んだり聞いたりして理解する。 ・学校生活について話したり、文章を書いたり	活動の観察 ワークシート エッセイライティング 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○

				する。 【文法】 ・助動詞について学んで理解する。 ・伝えたい意味に応じて助動詞を正しく使う。					
	前期中間考査・パフォーマンステスト		2				○	○	
7 ・ 8 月	Lesson 4	What You've Learned through Experience	5	体験から学んだことを他者に伝える。 【題材に関するタスク】 ・体験から学んだことについて、文章を読んだり聞いたりして理解する。 ・体験から学んだことについて話したり、文章を書いたりする。 【文法】 ・形容詞のはたらきや、分詞の形容詞用法について学んで理解する。 ・伝えたい意味に応じて、適切な形容詞を用いて文を作る。	活動の観察 ワークシート エッセイライティング 振り返りシート		○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
9 月	Lesson 5	Modern Conversation	3	現代社会の利便性について意見を伝える。 【題材に関するタスク】 ・現代社会の利便性に関する文章を読んだり聞いたりして理解する。 ・現代社会の利便性について話したり、文章を書いたりする。 【文法】 ・さまざまな表現を使った形容詞句について学んで理解する。 ・伝えたい意味に応じて、適切な形容詞句を用いて文を作る。	活動の観察 ワークシート エッセイライティング 振り返りシート		○ ○	○ ○	○ ○ ○
	Lesson 6	The Information Society	4	情報社会について意見を伝える。 【題材に関するタスク】 ・情報社会に関する文章を読んだり聞いたりして理解する。 ・情報社会について話したり、文章を書いたりする。 【文法】 ・関係代名詞・関係副詞について学んで理解する。 ・関係代名詞・関係副詞を用いて文を作る。	活動の観察 ワークシート エッセイライティング 振り返りシート		○ ○	○ ○	○ ○ ○
	前期末考査・パフォーマンステスト		2				○	○	
10 月	Lesson 7	Language and Thought	3	言葉と思考について意見を伝える。 【題材に関するタスク】 ・ことばと思考についての文章を読んだり聞いたりして理解する。 ・ことばと思考について話したり、文章を書いたりする。 【文法】 ・副詞のはたらきについて学んで理解する。 ・伝えたい意味に応じて、適切な副詞を用いて文を作る。	活動の観察 ワークシート エッセイライティング 振り返りシート		○ ○	○ ○	○ ○ ○
	Lesson 8	Emotions and the Workings of the Mind	4	感情と心のはたらきについて意見を伝える。 【題材に関するタスク】 ・感情と心のはたらきについての文章を読んだり聞いたりして理解する。 ・感情と心のはたらきについて話したり、文章を書いたりする。 【文法】 ・不定詞（副詞用法）・分詞について学んで理解する。 ・伝えたい意味に応じて不定詞・分詞を正しく使う。	活動の観察 ワークシート エッセイライティング 振り返りシート		○ ○	○ ○	○ ○ ○
11 月	Lesson 9	What Exactly Does Leadership Mean?	3	リーダーシップについて意見を伝える。 【題材に関するタスク】 ・リーダーシップについての文章を読んだり聞いたりして理解する。 ・リーダーシップについて話したり、文章を書いたりする。 【文法】 ・さまざまな意味を表す副詞節について学んで理解する。 ・伝えたい意味に応じて適切な副詞節を用いて文を作る。	活動の観察 ワークシート エッセイライティング 振り返りシート		○ ○	○ ○	○ ○ ○
	Lesson 10	Introducing Japan	4	日本を紹介する。 【題材に関するタスク】 ・日本を紹介する文章を読んだり聞いたりして	活動の観察 ワークシート		○ ○	○ ○	○ ○

			理解する。 ・日本について話したり文章を書いたりする。 【文法】 ・原級・比較級・最上級を使う比較について学んで理解する。 ・原級・比較級・最上級を用いて文を作る。	エッセイライティング 振り返りシート		○	○	
	後期中間考査・パフォーマンステスト		2			○	○	
12月	Lesson 11	Making Innovation Happen	3	イノベーションについて意見を伝える。 【題材に関するタスク】 ・イノベーションについての文章を読んだり聞いたりして理解する。 ・イノベーションについて話したり、文章を書いたりする。 【文法】 ・仮定法について学んで理解する。 ・仮定法の表現を用いて文を作る。	活動の観察 ワークシート エッセイライティング 振り返りシート	○	○	○
	Lesson 12	Embracing Diversity in Society	4	社会の多様性について意見を伝える。 【題材に関するタスク】 ・社会の多様性についての文章を読んだり聞いたりして理解する。 ・社会の多様性について話したり、文章を書いたりする。 【文法】 ・要求や必要、認識を表す表現・時制の一致・話法について学んで理解する。 ・要求や必要、認識を表す表現・時制の一致・話法を用いて文を作る。	活動の観察 ワークシート スピーチ 振り返りシート	○	○	○
1月	Lesson 13	Tourism and Japanese Society	3	観光と日本社会について意見を伝える。 【題材に関するタスク】 ・観光と日本社会についての文章を読んだり聞いたりして理解する。 ・観光と日本社会について話したり、文章を書いたりする。 【文法】 ・存在や変化の表現について学んで理解する。 ・伝えたい意味に応じて、存在や変化、「～がかかる」という表現を正しく用いて文を作る。	活動の観察 ワークシート プレゼンテーション 振り返りシート	○	○	○
	Lesson 14	Food and Health	4	食と健康について意見を伝える。 【題材に関するタスク】 ・食と健康についての文章を読んだり聞いたりして理解する。 ・食と健康について話したり、文章を書いたりする。 【文法】 ・使役動詞・知覚動詞について理解する。 ・伝えたい意味に応じて、使役動詞・知覚動詞を用いて文を作る。	活動の観察 ワークシート プレゼンテーション 振り返りシート	○	○	○
2・3月	Lesson 15	SDGs and Issues Facing the World	3	SDGsと世界の問題について意見を伝える。 【題材に関するタスク】 ・SDGsと世界の問題についての文章を読んだり聞いたりして理解する。 ・SDGsと世界の問題について話したり、文章を書いたりする。 【文法】 ・日本語とは違う英語らしい表現について学んで理解する。 ・無生物主語や受動態を使う表現を用いて文を作る。	活動の観察 ワークシート ディベート 振り返りシート	○	○	○
		Supplementary Exercises	3	【タスク】 ・さまざまなテーマについて英語で考え、筋道立ててわかりやすく伝える。 ・Exampleの文章を読んだり、実際に自分の考えを書いたりする。	活動の観察 ワークシート ディベート 振り返りシート	○	○	○
	学年末考査・パフォーマンステスト		2			○	○	
			70					

<学習内容についての補足説明> (授業の形態等の詳細な説明も含む。)

- ・授業は基本的には英語で行われます。
- ・ペアで自分の考えや意見を伝え合う活動が定期的に行われます。

4. 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解しているか。
思考・判断・表現	英語で情報や考えなどを的確に理解し、適切に伝えているか。
主体的に学習に取り組む態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているか。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・年4回の定期考査、パフォーマンステスト
- ・各種小テスト
- ・発表〔スピーチ、ディベート、ディスカッション、プレゼンテーション〕では、次の観点で評価します。
 - ①アイコンタクト、②声の大きさ、③正しい発音と抑揚、④語彙の使用状況
- ・ワークシート
- ・エッセイライティング（①分量、②内容（論理性、具体性）、③文法）
- ・提出物
- ・学習活動への参加の状況（ペアワーク、グループワークの取り組み等）

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5. 特に強調しておきたい点

英語は、毎日学習することが大切です。この計画を参考にして、進んで学習する習慣を身に付けましょう。知らない単語や表現が聞こえてきても、ビジュアルエイドやジェスチャーなどを手がかりにして理解に努めましょう。1年間、英語漬けになることで、リスニング力ばかりでなく、語彙力や英語で表現する能力を確実に伸ばすことができます。ただ、どうしても推測できない単語や表現は辞書を使って確認する作業を怠らないようにしましょう。英語を上達させるには、学んだ表現を実際にできるだけ多く使って見る必要があります。学習した表現はスピーキングやライティング活動で積極的に用いるようにしましょう。

情報 I

科目	情報 I		年次・コース	2年次 全クラス	
単位数	2	使用教科書	改訂版 高等学校 情報 I (数研)	副教材・問題集等	情報 I サポートノート(数研)

1. 科目の目標

効果的なコミュニケーションの実現, コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに, 情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。また, 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え, 問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する能力を高めるとともに, 情報社会に主体的に参画する態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 (技術) a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
効果的なコミュニケーションの実現, コンピュータやデータの活用について理解し, 技能を身に付けているとともに, 情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え, 問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら, 問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し, 自ら評価し改善しようとしている。

3. 学習の計画

月	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動 (指導内容) と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4	第1編 情報社会の問題解決	第1章 情報とメディア	4	・情報や情報社会に興味関心を持ち, 身の回りの問題点について考えることができる。 ・知的財産権, 著作権等の法律, 個人情報漏洩の危険性等について理解できる。	行動観察 ワークシート	○		○
		第2章 情報社会における法とセキュリティ						
5	第2編 コミュニケーションと情報デザイン	第1章 情報のデジタル表現	6	・デジタルとアナログの違いについて理解し, デジタル化の利点について知ることができる。 ・数値や文字, 音声, 色, 画像のデジタルデータの扱いについて理解できる。	行動観察 行動観察	○		○
		第2章 コミュニケーション手段の発展と特徴						
6		第3章 情報デザイン	6	・メディアや表現方法, 適切な情報発信の方法について考えることができる。 ・情報の抽象化, 構造化, 可視化等の手法を理解しユニバーサルデザインに生かすことができる。	行動観察 課題確認	○	○	○
		第4章 プレゼンテーション						
7		【巻末実習】プレゼンテーション作成・発表	6	・プレゼンテーションの手法について学び, 実践することができる。 ・見やすいスライド作成や分かりやすい発表ができる。	課題確認 発表評価 定期考査	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
8 9 10	第3編 コンピュータとプロ	第1章 コンピュータのしくみ	10	・コンピュータ内部の構成, ソフト・ハードについて理解する。	行動観察	○		
		第2章 プログラミング						

11	グラミング	第3章 モデル化とシミュレーション	8	・課題解決のためのモデル化とシミュレーションの方法を理解し活用することができる。	ワークシート	○	○	
12	第4編 情報通	第1章 ネットワークのしくみ	6	・情報通信ネットワークの進化とそれに伴うコミュニケーションの変化について理解できる。	行動観察			○
1	信ネット	第2章 データベース	6	・データベースの役割を理解し適切に活用できる。	行動観察		○	○
2	トワークとデータ	第3章 データの分析 【巻末実習】データを分析してみよう	6	・表計算ソフトを利用してデータ分析を行うことができる。 ・大きなデータを分析し課題解決につなげることができる。	行動観察 課題確認 定期考査	○		○
3	データの活用					○	○	○
通	第1編 情報社会の問題解決	第3章 情報技術が社会に及ぼす影響 【巻末実習】安全なパスワードを作ろう	4	・情報セキュリティの大切さを理解し、対策方法について考えることができる。 ・普段使用しているパスワードがどれだけ安全なものかを確認し、よりセキュリティレベルの高いパスワードを考えることができる。	行動観察 課題確認		○	○
年								
		年間授業時間数	70					

4 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。	
知識・技能	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会との関わりについて理解している。
思考・判断・表現	事象を情報とその結びつきの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。
主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。	
<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（期間中に学習した内容でテストを行います。） ・課題作品提出（実習で作成した課題で評価をします。） ・学習への参加状況（実習への取り組み状況、授業中の発言内容、振り返りシート等） 	
また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。	

5 特に強調しておきたい点

教科「情報」は生きた教科です。今日習った最新の知識が明日には過去の知識となることもあります。普段の生活の中からいろいろな情報技術に触れ、そして、そこから手にした情報や知識を生かしていく情報活用能力を身につけてください。

令和8年度 教育 課程 表

岐阜県立斐太高等学校 全日制課程 単位制 普通科(普通)

1年次

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	備考
現代の国語 (2)		言語文化 (2)			歴史総合 (2)		公共 (2)		数学Ⅰ (3→2)		数学Ⅱ (4)	数学A (2)		化学基礎 (2)		生物基礎 (2)		体育 (7~8)		保健 (2)	音楽Ⅰ (2)	美術Ⅰ (2)	英語コミュニケーションⅠ (3)			論理・表現Ⅰ (2)		家庭基礎 (2)		* (3~6 →2)	HR		

※ 期間履修

* :総合的な探究の時間

2年次文系

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	備考
論理国語 (4)		古典探究 (4)			地理総合 (2)		日本史探究 (3)		世界史探究 (3)		数学Ⅱ (4)		数学B (2)	数学C (2)	地学基礎 (2)		体育 (7~8)		保健 (2)	英語コミュニケーションⅡ (4)			論理・表現Ⅱ (2)		情報Ⅰ (2)		* (3~6 →2)	HR					

※ 期間履修

* :総合的な探究の時間

2年次理系

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	備考
論理国語 (4)		古典探究 (4)			地理総合 (2)		数学Ⅱ (4)		数学Ⅲ (3)	数学B (2)	数学C (2)	物理基礎 (2)		物理 (4)	化学 (4)		体育 (7~8)		保健 (2)	英語コミュニケーションⅡ (4)			論理・表現Ⅱ (2)		情報Ⅰ (2)		* (3~6 →2)	HR					

※ 期間履修

※ 期間履修

※ 期間履修

* :総合的な探究の時間

3年次文系

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	備考
論理国語 (4)		国語特講(学) 音楽特講B(学) 美術特講B(学) 書道特講B(学) 生物探究(学)			古典探究 (4)		日本史探究 (3)		日本史特論 (学)	地理探究(3)		日本史探究(3)	数学C (2)		地歴特講(地理)(学)	地歴特講(日本史)(学)	地歴特講(世界史)(学)	文系数学特講(学)	化学基礎探究 (学)	生物基礎探究 (学)	体育 (7~8)		英語コミュニケーションⅢ (4)			論理・表現Ⅲ (2)		HR					

生物探究(学)

3年次理系

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	備考
論理国語 (4)		古典探究 (4)			地理探究 (3)		地理特論 (学)	日本史探究 (3)		日本史特論 (学)	数学Ⅲ (3)		理系数学特講A (学)	数学C (2)		物理 (4)		生物 (4)		化学 (4)			体育 (7~8)		英語コミュニケーションⅢ (4)			論理・表現Ⅲ (2)		HR			

※ 期間履修

整理番号